

日本体育協会の新会長にトヨタ自動車、張富士夫会長の就任が内定した。トヨタ自動車といえば、世界にその名を轟(とどろか)せる大企業である。トヨタをはじめとする多くの大企業は戦後日本スポーツ界を支えてきた。これが日本特有の企業スポーツである。時代や形態が変わっても、スポーツは企業の支援がなければやっていけない。そう考えると、今回の人事の意味は非常に大きい。経済界とスポーツ界の相乗効果に期待したい。企業スポーツの代表ともいえるトヨタ自動車の会長が日本スポーツ界のトップ

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



張新会長手腕に注目

スポーツモデルの構築が命題とされているのである。

新しい日本スポーツモデルとして、企業依存(上下関係)からパートナー(並列関係)へと、その関係性をシフトすることが求められている。従来の福利厚生

に就くことで、どのような新しい日本スポーツモデルの絵を描くのだろうか。

現在、この不況下、企業は従来のようにスポーツを支えられない。だからこそ、日本スポーツ界は今、企業スポーツに代わる新しい日本

や広告宣伝といった企業目の線の利用価値ではなく、スポーツ本来の価値を企業側に提供していかねければならない。それでいえば、CSR(企業の社会的責任)はスポーツ界にとって重要なキーワードだろう。

こととは何か。そして、スポーツが果たすべき役割とは何かを一緒に考えていることがパートナーに求められることなのである。欧州の地域密着型スポーツモデルを目指し、すでに十数年が経過しようとして

しかし、本当の意味でスポーツ界はCSRを理解しているだろうか。企業がスポーツを支援すること自体はCSRの一部でしかない。持続可能な社会経済システムを構築するため、企業がやらなければならない

いる。その100年という歴史に比べれば、足元にも及ばないが、ようやく日本スポーツ界にも変化が表れている。しかし、いくら地域密着とはいえ日本スポーツ界の発展に企業の支援は絶対に欠かせない。だから

こそ依存からパートナーへとその関係性をシフトしていかねければならない。ただ、企業側がスポーツをパートナーとして考えているとは、まだまだ言い難い。どうしても旧来の企業スポーツの概念から抜け切れていない。そういった意味では新しい日本スポーツモデルの構築、企業側の意識変革も含めてスポーツに理解があり、そして経済界のトップでもある新会長の手腕に注目が集まる。ステレオタイプの企業スポーツはもういらぬ。

(REGISTA有限責任事業組合代表)

隔週土曜日掲載